

法友

For You

2020. 9 No.56



【発行】(公社)伊勢法人会 女性部会広報委員会
〒516-0037 三重県伊勢市岩渕1丁目7-17
伊勢商工会議所5階
TEL 0596-28-5665 FAX 0596-24-8315



丸山

伊勢法人会

検索 🔍

<http://isehojinkai.or.jp/> クリックしてホットな情報をご覧ください



部会長
伊藤 由美子

オリンピックの開催を楽しみに迎えた二〇二〇年でしたが、図らずも、新型コロナウイルスや、度重なる災害による犠牲を強いられる年となっていました。

新型コロナウイルスの影響は、どのような状況に向かっていくのか予測不可能です。皆様のそれぞれの企業や業界でも様々な問題を抱えておられることと思います。

夏休み親子映画会を初めてする女性部会の年間行事も、三密を避けられないという事情から、その多くを中止せざるを得なくなり、残念な思いでいっぱいです。外出自粛で、人と触れ合えない日々は、これまででの当たり前の日常のありがたみを感じさせてくれました。しかし、そんな中でも、私たちの暮らしを支えるために、たくさんの方々が頑張ってくださいています。医療従事者の方はもちろん、保育所

や介護施設のスタッフの方々、物流関係者、スーパーなど食料品関係者の方々等、挙げたらきりがありませんが、心より感謝申し上げます。心より感謝申し上げます。そして、こんな時だからこそ、本当に困っている人々の助けになるよう、有効に税金を使ってほしいものだと思います。

一日も早く、コロナ禍や災害の影響を乗り越え、また皆様と共に、税の啓発活動に活発に取り組めるよう願ってやみません。同時に、こんな時こそ重要な、なくてはならない税金、コロナ禍の中にあっても、税金の大切さを伝えるために何ができるか、知恵を出し合って、新しい動きをしていかなければならないと思います。

部会員の皆様、今後とも法人会活動にご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

また、最後になりましたが、税務当局の皆様、親会の皆様変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

署長講話・親睦会

令和2年2月21日(金) 於：賢島宝生苑

令和二年二月二十一日、賢島宝生苑にて、署長講話・親睦会が開催されました。

伊勢税務署松井署長様より、「がんばれ志摩ノ海」力士の収入と確定申告」と題し、力士のお給料や褒賞金等について、ご講話いただきました。

階級、活躍等で違うという事で、わかりやすい資料もご用意いただき、ありがとうございました。志摩ノ海がより一層活躍すると、結果、お給料も増え、納税も増える事につながるので、ご講話をいただき、今後の益々の活躍を応援していきたいと思

ました。

又、懇親会では厚生委員会の皆様を中心になった「パプリカ」のダンスで会場が和んだところで、田中統括官の素晴らしい歌声で、昨年とは違った一面を見せていただきました。最後は地元志摩の伊勢えび祭で知られる「じゃこっぺ踊り」で会場全体が盛り上がり親睦会が閉会となりました。

ご来賓の方々、参加いただきました皆様、ありがとうございました。



時の人



伊勢税務署
署長 伊勢 隆生 氏

★出身・生年月日

実は、伊勢市出身で、高校卒業まで住んでいました。生年月日は昭和三十七年十一月三十日です。

★家族構成

今は、名古屋の自宅で妻と二人暮らしです。子どもは二人いますが、共に結婚して、長女は東京、長男は名古屋に住んでいます。

★伊勢の感想

出身地へ赴任することは珍しいので、まず驚きました。そして、懐かしい思いと楽しみな思いがあふれてきました。何より、伊勢神宮のお膝元、歴史ある伊勢の地で勤務することは大変光栄であるとともに、身の引き締まる思いです。

★前の仕事

前職は桑名税務署長です。その前が、職員の非行の予防などが役目の監察官をしてい

て三重県下の署を担当していました。何かと三重県とつながりがあったようです。

★趣味

趣味といえるものはありませんがゴルフを少しします。それから、妻と二人で映画やコンサートを観たり、あちこちのグルメを楽しんだりしています。それより今は、たまに家に来る孫と遊ぶことが、何よりの楽しみです。

★座右の銘

座右の銘とはいえませんが、「縁」という言葉を大切にしています。これまでいろいろな部署、地で仕事をしてきて、国税の職員はもとより、多くの他の機関の方々とも接し、様々なことを教えてもらったり、助けてもらったりしました。また、プライベートでも、親戚にたくさん世話になってきました。ここまでやってこれたのは、「縁」のおかげだと思っています。

★心掛けていること

判断や指示を誤ったり迷ったりしないようにすることと、職員が働きやすい環境を作ることを意識しています。

職員が気持ちよく、また、不安や迷いなく仕事に取り組めるようにしていきたいと思っています。

★印象深い仕事・勤務地

仕事、勤務地とも、北海道の札幌北税務署で副署長をしたことです。全く知らない土地、知らない職員ばかりの中で初めての仕事をします。その上、初めての単身赴任ということで、公私とも不安で一杯でしたが、周りの人たちに助けられ、楽しく仕事をすることができました。

★伊勢法人会女性部会に対するメッセージ

県下最多の会員数をほこり、非常に活発な活動を展開していると聞いております。特に租税教室への講師派遣については、多くのクラスを担当いただいているところで、様々な活動に対し、感謝申し上げます。非常に心強く感じております。

★今後の女性部会に一言

引き続き、租税教室をはじめとした様々な活動を積極的にお願いできればと思います。本年は時節柄、様々な制約があるなど、例年どおりとはいかない所もあり大変かとは思いますが、よろしく願いいたします。署の方にご要望等あれば、何なりと申しつけください。

租税教室

令和2年1～2月
於：管内各小学校

開催日	学校名
1月14日(火)	四郷小学校
1月15日(水)	鏡浦小学校
1月16日(木)	東海小学校
1月20日(月)	神社小学校
1月29日(水)	浜郷小学校
2月20日(木)	外城田小学校



はつらつ新入部会紹介

(令和元年12月1日～令和2年7月30日)

青木 千香 (名)青木商店 〈宮川支部〉

(敬称略)

太神宮 あちこち

第11回

田上大水神社・ 田上大水御前神社(上)

神宮禰宜 石垣 仁久

一

御木本道路を伊勢庁舎前で前山方面に曲がると、右手に丸山と呼ばれるこんもりとした森があります。そこに外宮撰社の田上大水神社と田上大水御前神社(以下、御前神社と記します)が鎮座しています。二社は一巡りの玉垣内にあり、御門の奥が田上大水神社で、横向きの小さい方の社殿が御前神社です。

そのあたりは古くから豊宮崎と呼ばれる外宮神田が営まれた土地でした。田上は文字通り田を見渡す丘の上、または「田の辺」で田のほとりのいずれかの地勢を指す名称で、大水は水を司る大いなる神の意味と考えられ、五十鈴川畔にも内宮撰社の大水神社があるように、撰末社の中には、水に関わる神を祀る神社が多く見られます。丸山は学術的には車塚一号

墳という高さ五メートルほどの六世紀頃築かれた古墳です。周囲に陪塚(古墳に隣接する小規模墳)らしき二つの叢が存在しましたが、宅地化と道路改修により消滅しました。

丸山は、この地方では珍しい前方後円墳の可能性があり、南が前方部、北が後円部、社殿の裏手に横穴式の石室があると考えられています。つまり田上大水神社と御前神社は、古墳の上に鎮座していることとなります。墳墓と神社は相反的な関係にあるように思えますが、実は全国的に見て、古墳上に神社が鎮座している例は少なくありません。太古人々に崇められた有力者の墳丘が、長い年月を経て神社として今日に至るには、両者に共通したものがあ

るのでしょう。古墳が築かれた土地の環境、例えば方角や集落との位置関係、山や川との位置関係など、神社が鎮座する諸条件と重ねると、共通する事項もいくつか見出せそうです。

二

さて、田上大水神社は、延長五年(九二七)に完成した『延喜式』に記載されていますので、平安時代には確実に存在したことが確認されます。また、同時代の『止由気宮儀式帳』には、田上神社とあつて「大水」の二文字が脱落していますが、同一の神社と考えるとよいでしょう。

『儀式帳』には、正殿(長さ五尺・広さ三尺五寸・高さ三尺)、玉垣(回りの長さ六丈・高さ八尺・御門(高さ八尺・広さ六尺)とありますので、平安時代も現在のように正殿の周囲を御門が備わった玉垣が巡っていたようです。玉垣の高さ八尺に対して正殿の高さが三尺では釣り合いが取れないように感じますが、正殿の高さを示す場合は、床から棟木までを言っているようで、実際は地面から床までを足すと、屋根までの高さは六尺位はあつたはず

です。一方、御前神社は『延喜式』と『儀式帳』に記載がなく、鎌倉時代に度会行忠が撰述した『伊勢二所太神宮神名祕書』の田上大水神社の注記として「前社在り」とあるのが初見です。『延喜式』と『儀式帳』に見えない神社が撰社であるのは、本社と御前社の祭神によるものと考えられます。田上大水神社の祭神は、『神名祕書』などによると第二十九代欽明天皇の御代(六世紀)の外宮大神主とされる小事、御前神社はその娘である宮子とされています。小事神主は『考訂度会系図』によると、外宮大神主の乙乃古命の四男で、度会氏四門の始祖とされます。いわば度会氏の中でも最も繁栄した四門の氏神のような性格を有しており、そのため明治以前は四門の氏人たちの私財で社殿造営が行われていました。

ちなみに度会氏四門は、上部・河井・藤原・橋村・出口・藤本などの各家に分かれ、明治維新まで外宮に奉仕していました。

御前神社祭神の宮子は「考訂度会系図」に、大神主小事の娘であること以外に、齋内親王御杖代と記されています。御杖代というのはですから、齋王の代理として外宮に仕えたという意味なのか、詳細はまったく不明です。

神宮の撰社の中には、御前神社が付属している例が多くあります。御前神社の性格については諸説ありますが、本社(ここでは田上大水神社)の御前にいる神であり、祭神が女神である例が多いことから、本社の祭祀を司った巫女的性格を有する神であると考えられます。

同じようなことは、春日大社が第四殿に比売神を祀っていることや、歴史の古い八幡宮で主祭神と共に比売神が祀られている例も多く見られることから、本来は神を祀る者、すなわち齋主がいつしか祭神の一柱となつて祀られるに至つたと考えられます。

(つづく)